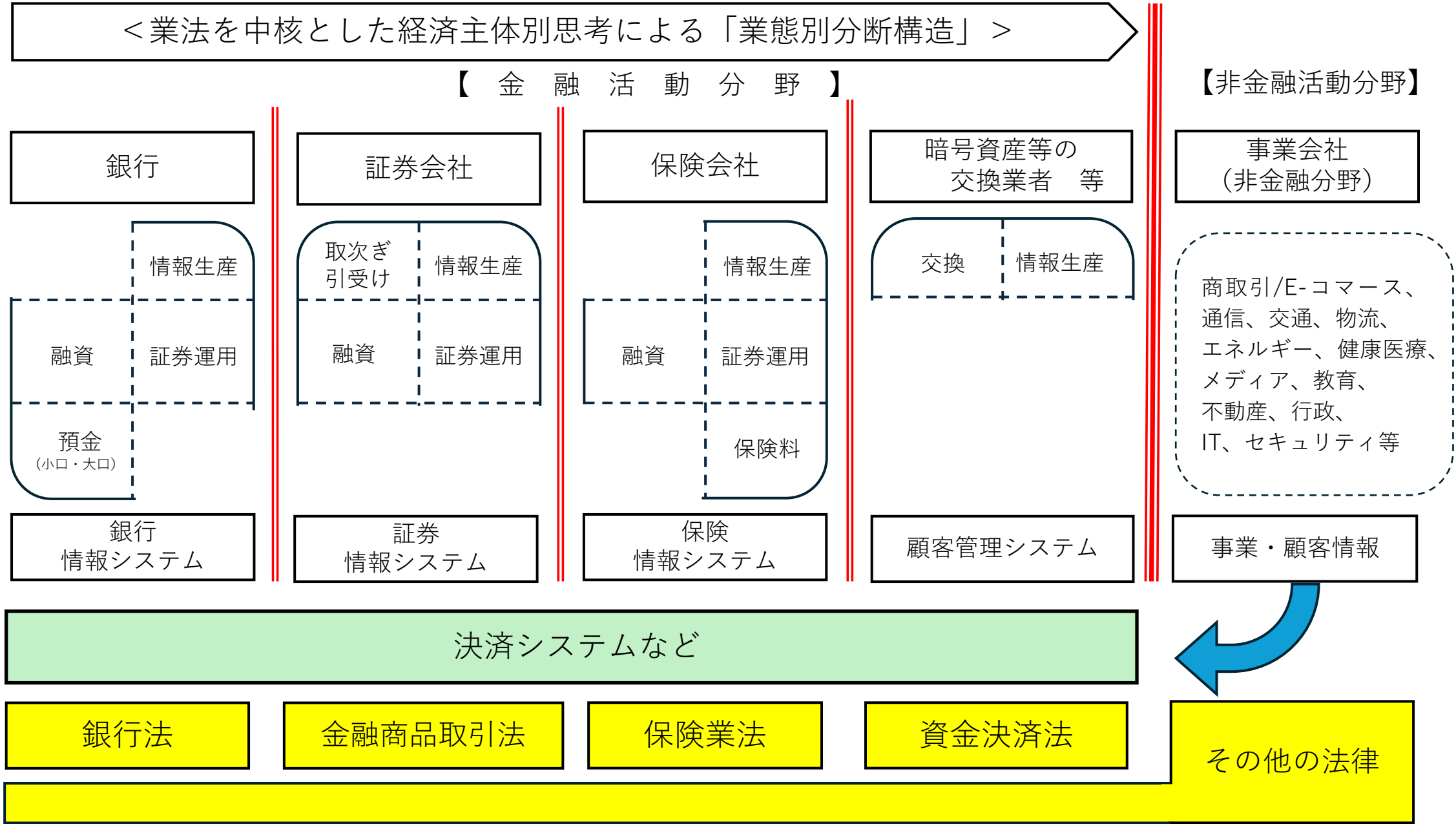


(図1)

《従前の金融インフラ》



《次世代の金融インフラ》

- ① 金融機能別思考に基づいた業態横断的な構造 → 金融サービス・提供主体の組換え
- ② 基盤レイヤーの再構築 (≒金融サービスの促進)
- ③ 金融分野・非金融分野の連携・融合
- ④ データ活用による利用者ニーズ等の可視化 + 生産プロセスの自動化・高度化
→ 金融・非金融サービスの高付加価値化



レイヤー構造 + 金融サービス・基盤レイヤーのモジュール化

金融機能等の分解による**金融サービスのアンバンドリング**、**組合せによるモジュール化**

金融サービスを分解する視点

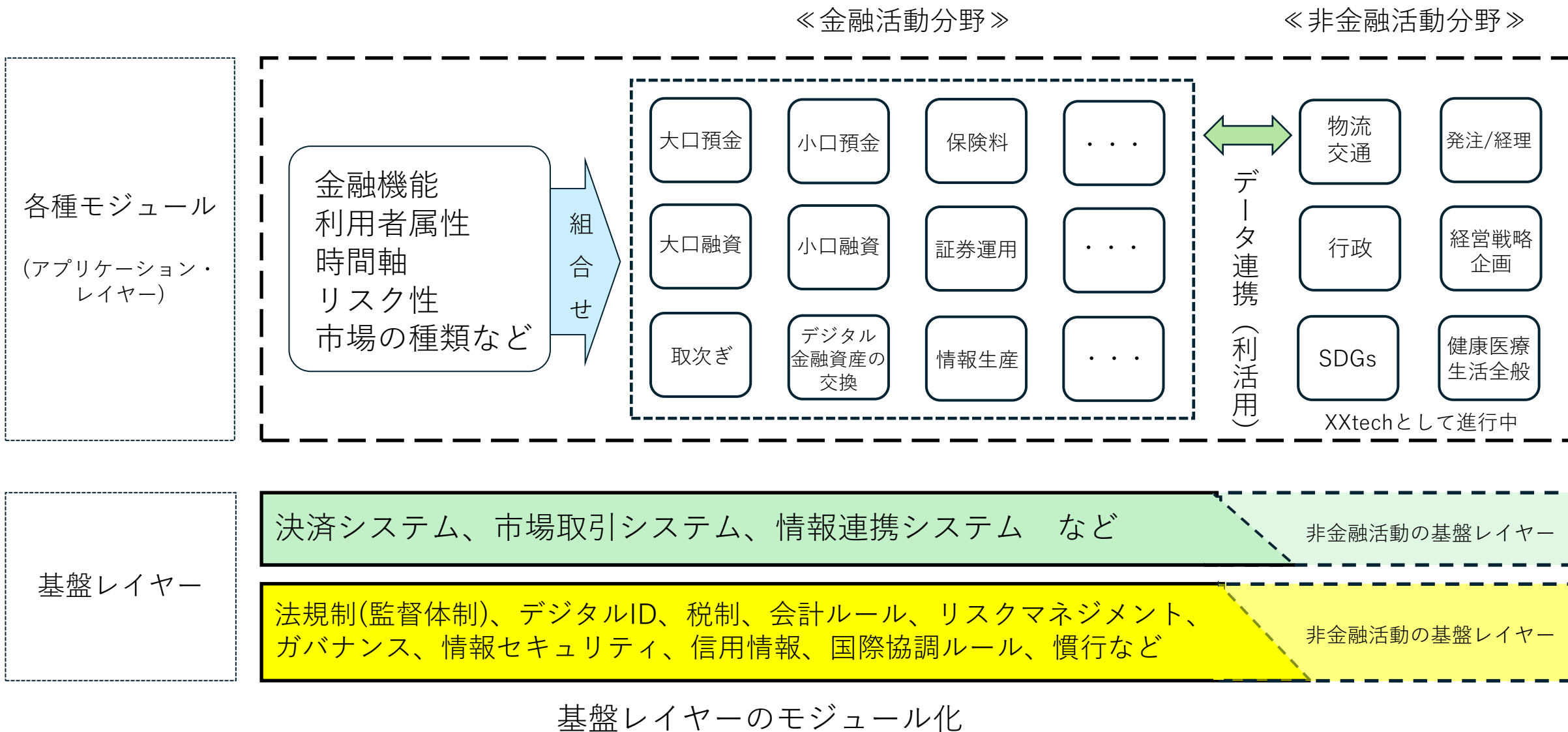
- 金融機能** (交換・決済機能、価値保存機能 (調達機能・与信機能・期間変換機能)、
価値尺度機能、保険機能、情報生産機能 など)
- × **金融サービスの利用者属性** (保有資産・投資資産の金額、プロ投資家への該当性・
情報収集・分析能力 など)
- × **リスク性** (価格の変動特性、流動性リスクなど)
- × **提供される金融サービスに対応した時間軸** (短期、長期など)
- × **市場の種類** (リテール市場、ホールセール市場、クロスボーダー市場など) など

組合せ

モジュール化された
金融サービス

(図 3)

次世代金融インフラの例示：金融機能別思考への転換

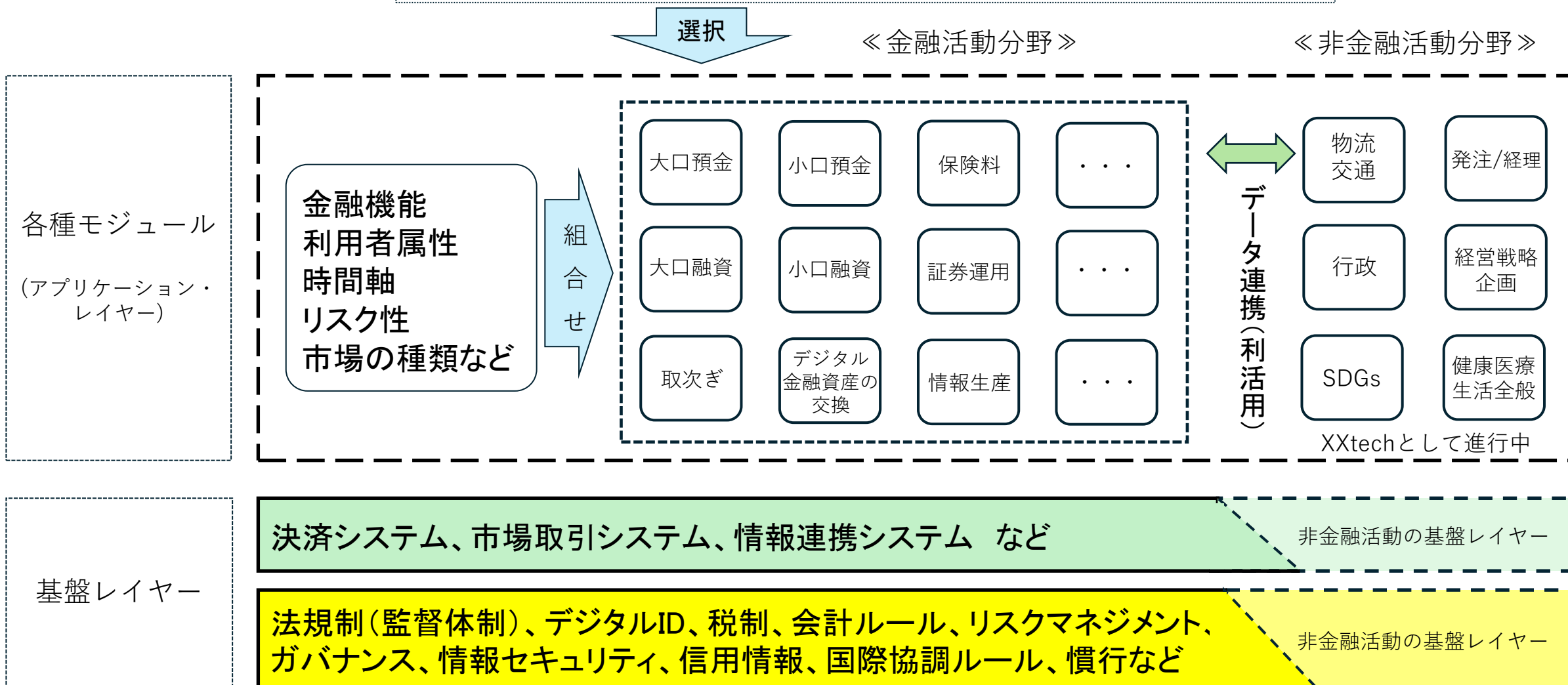


(図4)

《次世代金融インフラの例示:金融仲介機能の主体①》

【ケース1】 金融仲介業者が中核を担うケース

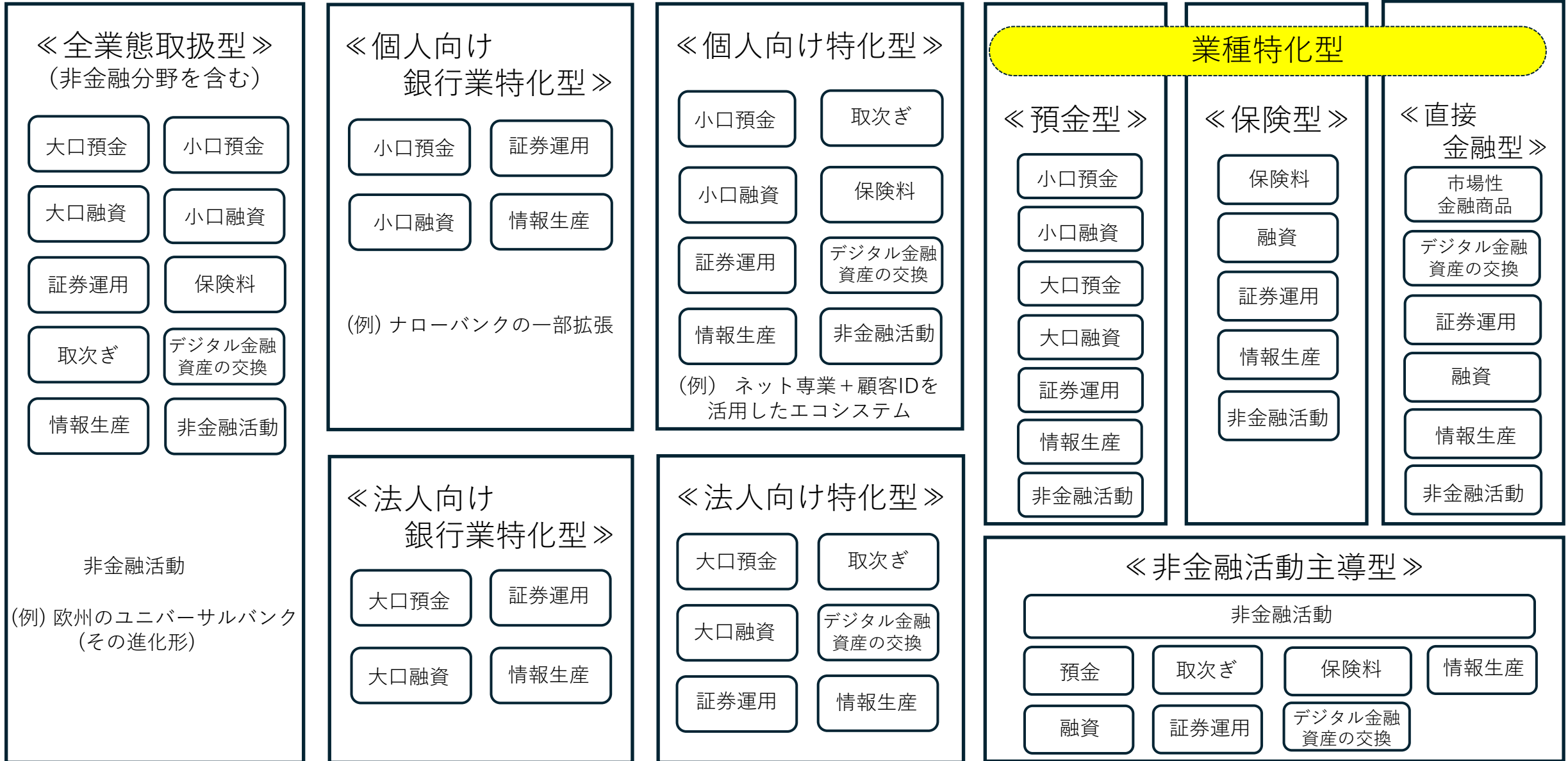
金融仲介業者による事業活動に見合ったモジュールの選択・組合せ



基盤レイヤーのモジュール化

(図5)

次世代金融インフラにおける「さまざまな金融仲介業者」の例



(図6)

《次世代金融インフラの例示：金融仲介機能の主体②》

【ケース2】 決済・情報連携システム等が金融仲介機能を代替するケース

《金融・非金融活動分野の融合》

